

4) 日本集中治療教育研究会(JSEPTIC)と感染症診療・教育

¹ 東京ベイ浦安市川医療センター

○藤谷 茂樹¹

日本集中治療教育研究会(JSEPTIC)を2008年3月26日に、日本感染症教育研究会(IDATEN)設立した。海外では集中治療学は確立された学問として教育研究がなされている。立ち上げ当初は下記の7つの活動目標を掲げ、4人のコアメンバーで細々と立ち上げたが、徐々に仲間が増え、現在では、特定非営利活動法人(NPO法人)として活動をするに至っている。メーリングリスト会員は、現時点で3,065名であり、内訳は、医師815名、研修医361名、看護師146名、学生77名、コメディカル64名となっている。現在の活動は、大きく4つに分かれております。1: JSEPTIC 機関誌である INTENSIVIST の刊行、2: 臨床研究委員会による多施設合同研究のサポートと実施、3: 年4回のセミナー開催、4: シミュレーション部会による米国集中治療学会の公認コースである Fundamental Critical Care Support、Fundamental Disaster Management や院内急変対応(Rapid Response System)機関誌 INTENSIVIST では、peer review 方式を取り入れ、質の確保された商業雑誌を制作することに力を入れており、Sepsis、重症感染症、Infection Control を今までに発行してきた。臨床研修委員会からは、J-SCRIPT (Japanese Survey of antimicrobial use in ICU Patients: 我が国の集中治療室における抗菌薬使用状況の横断調査) の多施設臨床疫学研究の報告をしてきた。FCCS コースでは、重症感染症の初期マネージメントや敗血症のシミュレーションを用いた初期診療を指導している。これらの活動を通じて、感染症診療の標準化の普及や感染症に関連する臨床研究を施行することで、若手医師を巻き込み、感染症診療や感染症教育に貢献している。上記の4つの活動の中で感染症診療に関連している項目を紹介する。